

Spiritualism News Letter

2009
第 46 号

7月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行／スピリチュアリズム・サークル 心の道場

発行人／小池里子

〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1

TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257

ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・スピリチュアリズムにおける心霊現象の位置づけと、心霊現象の推移…… 1
- ・“フォックス家事件”に対する反対論者の捏造
反対派の圧力に屈して“ウソ”をついた本物の霊能者の話…… 14
- ・書籍の「再版状況」についてのお知らせ…… 22

スピリチュアリズムにおける 心霊現象の位置づけと、 心霊現象の推移

スピリチュアリズムは、世間一般には心霊現象や交霊会なぐいの類とされています。しかしスピリチュアリズムの本質を理解すると、スピリチュアリズム＝心霊現象＝交霊会＝心霊研究という認識は、あまりにも的外れであることが分かります。ここではスピリチュアリズムの中で「心霊現象」が、どのように位置づけされているのかを見ていきます。

スピリチュアリズムでは多種多様な心霊現象が発生しましたが、それは偶然的に生じたものではありません。

スピリチュアリズムにおける心霊現象は、どこまでも霊界の計画に基づいて起こされたものなのです。スピリチュアリズムの心霊現象には明確な計画性があります。心霊現象の秩序立った歴史は、霊界の高級霊の意図を反映したものなのです。今号では以上のような観点から、スピリチュアリズムの心霊現象について取り上げます。

内容は次のようになっています。

- 【1】スピリチュアリズムにおける心霊現象の位置づけ
——心霊現象は、どこまでも霊的真理・霊的教訓の前座
- 【2】初期スピリチュアリズム内部の霊的腐敗と墮落
——心霊現象に対する低俗な好奇心と、心霊現象を悪用するニセ霊能者
- 【3】スピリチュアリズムのターニングポイントと心霊現象の変化
——初期スピリチュアリズムから現代スピリチュアリズムへのレベルアップ
- 【4】スピリチュアリズムにおける心霊現象の通史
——計画的な心霊現象演出の推移

【1】スピリチュアリズムにおける心霊現象の位置づけ

——心霊現象は、どこまでも霊的真理・

霊的教訓の前座

地球人類は19世紀の近代スピリチュアリズムの登場をもって、大きな霊的転換期を迎えることになりました。人類の思想史上、あるいは人類の神秘主義思想上、最も重要な転換点^{ぼっこう}が1848年の近代スピリチュアリズムの勃興^{ぼっこう}でした。

近代スピリチュアリズムは、一般には「心霊現象の研究（心霊研究）」として知られています。当時の一流の科学者たちによって、それまで宗教の専門領域とされてきた心霊現象・神秘現象に対して、本格的に科学のメスが入れられることになりました。詳しい経過については別の機会に譲りますが、この一連の動きがあまりにも際立っていたため、近代スピリチュアリズムとは心霊研究のことである、とのイメージが社会一般に定着してしまいました。

しかし、これはスピリチュアリズムの初期における、きわめて限定された部分的な出来事です。当時の西欧世界を巻き込んだ心霊研究は、その後のスピリチュアリズムの普及・展開のために、霊界から計画的に引き起こされた序奏にすぎませんでした。心霊現象を演出して、スピリチュアリズムの思想の基礎となる「靈魂説」の正当性を明らかにすることが、その目的だったのです。

驚異的な心霊現象は、

すべて霊界側から計画的に演出されたもの

初期スピリチュアリズムを理解するうえで一番重要な点は、当時ひんぱんに引き起こされた心霊現象は、すべて霊界から計画的にもたらされたものである、ということです。スピリチュアリズムの初期に演出された驚異的な心霊現象は、スピリチュアリズム普及計画の一環として、すべて霊界側から展開されました。地球人類に「霊的真理・霊的教訓」を受

け入れさせるための準備段階として、用意周到に仕組まれたものだったのです。

スピリチュアリズムの心霊現象は、霊能力を持った特定の人間によって偶然に発生するようになったものではありません。霊界サイドの徹底した計画のもとで、演出されたものなのです。この点においてスピリチュアリズムの心霊現象は、世間一般に見られる心霊現象とは根本的に違っています。また歴史上に現れた他の宗教における心霊現象とも、その存在意義が本質的に異なっています。

仕方なく演出された心霊現象

では、スピリチュアリズムの初期に心霊現象を演出した霊界側の真の意図は、どこにあったのでしょうか。実は人類史上、類を見ないような数々の驚異的な心霊現象は、霊界人が心の底から喜んで起こしたものではありませんでした。本当は霊界人は、心霊現象などではなく、初めから高次元の霊的知識・霊的教訓を与えたいと思っていたのです。しかし当時の地上人の霊性はあまりにも低すぎて、霊的知識・霊的教訓がもたらされたとしても、それを正しく受け入れられるような状況にはありませんでした。せっかく霊的真理が与えられても、その重要性を理解することができる人は、ほとんどいなかったのです。

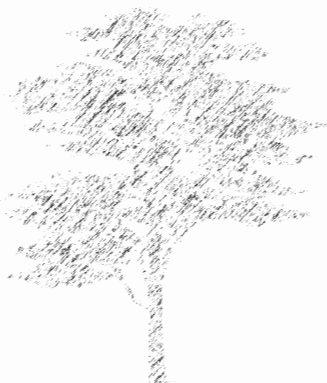
そこで霊界側は仕方なく、心霊現象という派手な演出をすることにしました。「物理的心霊現象」という華々しいデモンストレーションを行うことによって、まず人々の関心を「靈魂」に向けさせようとしたのです。

そうした霊界サイドの本音を、シルバーバーチは次のように述べています。

物質界の人間も本来は霊的存在です。その人間に霊的摂理を教えるためにラップなどの物理的心霊現象から始めなくてはならなくなったことを残念に思います。それほど現代の人間が物的感覚に浸り切り、霊性がマヒしているということです。(中略) 霊的波動に鈍感になってしまった人類は、物的なものにしか反応しなくなっています。

(シルバーバーチは語る・55)

私が残念に思うのは、本来が霊的存在であるはずの人間が、あまりに霊的なことから遠ざかり、霊的法則の存在を得心していただくためには、私たちスピリットがテーブルを浮揚させたりコツコツと叩いてやらねばならなくなったことです。(霊的新時代の到来・93)



ここにはスピリチュアリズムを心霊現象や交霊会とのみ思っている人々にとって、実に驚くべき霊界人の真意が示されています。シルバーバーチはまた、次のようにも述べています。

私たちは物的外皮の下に埋もれている永遠の実在を見出させてあげようと努力しているのです。それを、できることなら霊的な方法で行いたいのです。すなわち強烈なインスピレーションに触れさせるとか魂の琴線に触れさせるという形の方が望ましいのです。また、そう努力してみました。が、その方法では、反応を見せる人間は情けないほど少ないのです。

それに引きかえ、テーブルを動かすとか叩音を出すとか、メガホンを部屋中を飛び回らせるとかの現象をお見せすると、皆さんは“すごい！”とおっしゃいます。そのとき私たちは内心“何をくだらないことを！”と思っているのです。音を出してみせることの方が魂を感動させることより大切なのでしょうか。

(霊性進化の道しるべ・32)

スピリチュアリズムの初期に現出した驚異的な心霊現象は、当時の人々の心を惹きつけ、科学者を圧倒することに成功しました。しかし霊界側としては、本当はそんなことはしたくなかったのです。地上人の霊性の低さに合わせて、やむをえず相応しい働きかけをしたということなのです。

シルバーバーチの言葉は、そうした霊界側の思いを端的に示しています。演出された心霊現象は、人々にとっては驚異的なものでしたが、霊界の高級霊にとっては取るに足りないものでした。地球人類の霊性があまりに低かったために、仕方なくやってみせたことだったのです。

心霊現象演出の真の目的

——「靈魂説の証明」と「靈界通信の準備」

地球人類の靈的啓発と靈的救いというスピリチュアリズムの大目的は、靈的真理の普及によって達成されていきます。靈的真理が多くの人々に受け入れられ、実践されるようになるにともない、人類全体の靈性は向上していきます。しかし今述べたように地球人類にとって、心霊現象なしで初めから靈的真理を受け入れるということは不可能でした。

靈的真理を受け入れるためには、それに先立って靈魂の存在を認めなければなりません。「靈魂説」は靈的真理の最も基本ですから、人々が靈的真理の全体を理解するためには、まず「靈魂説」を受容することがどうしても必要になります。「人間は死んでも消滅することはない。靈として靈界で生き続ける」「靈界は、我々が住んでいる物質世界に重複して存在している。同じ場所に次元を異にして存在している」「靈界に住む靈から、絶えず地上人に向けて働きかけがなされている。その働きかけによって心霊現象が引き起こされる」——こうした基本的な靈的真理、すなわち「靈魂説」を証明するために、靈界側は心霊現象を演出したのです。地上側に「靈魂説」を受け入れる状況が整ったとき、初めて次の段階として高次元の「靈的真理・靈的教訓」を、靈界通信を通して与えることができるようになります。

靈界側の意図は、どこまでも靈界通信によって高度な靈的情報・靈的知識を地上人にもたらすことにありました。したがって靈界からすれば、種々の心霊現象の中で最も重要なものは、靈からのメッセージを伝える「靈界通信」ということになります。靈界側は、靈界通信というメッセージ伝達の手段を確保するために目を見張るような心霊現象を演出してきたのです。それによって「靈魂説」を立証し、靈魂（靈）の存在とその靈からメッセージが届けられる可能性があることを人々に示してきました。それが初期スピリチュアリズムにおける心霊現象演出の、すべての目的だったのです。

心霊現象は、靈的真理・靈的教訓の前座にすぎない

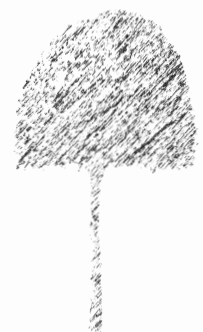
靈界の高級靈たちは、驚異的な心霊現象を通して地上人に靈魂の存在を認めさせ、靈魂説の正当性を証明してきました。そして靈界通信によって「靈的真理・靈的教訓」をもたらす準備を着々と進めてきました。スピリチュアリズムの初期における物理的心霊現象の演出は、靈的真理・靈的教訓を最終目的としていました。言い換えれば——「あらゆる心霊現象は靈的真理・靈的教訓をもたらすための前座として演出されてきた」ということなのです。

そうした靈界側の意図を、インペレーター靈は次のように述べています。

心霊現象は単に人間の目を見張らせ、面白がらせるためのものではない。肝心の目的は靈的教訓にある。
(靈訓下・161)

※『靈訓』については翻訳原文の文体・表現を改めています。

(我々は)現象そのものを目標としているのではない。目標は一段高い次元にある。
(靈訓下・162)



心霊現象は、あくまでも（霊の存在についての）確信を得させるための手段にすぎないものと心得よ。その一つ一つを霊の世界より物質の世界への働きかけの証と受けとめよ。それだけのものにすぎないと理解し、それを霊的神殿を建立するための基礎として活用せよ。現象はどういじくってみたところで、それ以上の価値は出てこない。（中略）あくまでも現象を基礎として、そこから一步踏み出さなければならない。現象に携わる知的存在の本性はいったい何であるのか、どこから来るのか、その意図は、等々を知ろうとしなければならない。（中略）

あなたが首尾よく現象的なものを超えて真理のための真理探究にまで進めば——要するに我々の意図を信じてくれれば——その暁には、いまだあなたが知らずにいる世界に案内することができるであろう。（霊訓下・163）

心霊実験にまつわる危険性について警告し、物理現象はいち早く卒業して霊的知識へと進むよう忠告しようとしているまでである。進歩には受け入れ態勢が先行しなければならない。が、我々としては、あなたが少しでも早く物的束縛より脱け出て、ひたすら霊的真理の追究に専心する日の到来を望み祈る気持ちでいる。（霊訓下・164）

現在の段階は、あくまで通過すべき段階でなければならない。我々の仕事にも物理現象は付随する。が、それは真の目的ではない。我々が期待している真の発展の地ならし程度でなければならない。（霊訓下・169）



心霊現象は霊的な“オモチャ”

スピリチュアリズムにおける心霊現象の存在意義は、「霊的真理・霊的教訓の前座」という言葉に言い尽くされますが、それと同じことを、シルバーバーチは“オモチャ”の譬えで説明しています。心霊現象が霊的真理の前座であることを、オモチャになぞらえています。

いつの時代にも“オモチャ”を必要とする人がいるものです。見かけは立派な大人でも、霊的には子供なのです。もっと素晴らしいもの（霊的真理）があることに気づくまでは、オモチャのような幼稚なもので満足なのです。とはいえ、何の関心も持たないよりは、たとえ低次元のもの（心霊現象）であっても、“霊”に関わるものに関心を持つ方が上でしょう。（新たな啓示・111）（ハート出版）

霊的真理は、霊的意識の芽生えていない人にはなかなか理解してもらえません。そこで現象的なものが必要となるのです。しかし、いったん現象に得心がいったら、それをオモチャのようにいつまでも玩んでいてはいけません。霊的な意義を考える生活へと切り換えないとはいけません。（新たな啓示・52）（ハート出版）

心霊現象が霊的世界への関心を喚起するなら決して無駄とは言えませんが、いつまでも現象だけにとらわれ続けていると、間違いを犯すことになります。シルバーバーチは——「交霊会で死者と交わることによって死後の生命の存続を確信し、死別の悲しみが癒されるなら交霊会には意味があることにはなりますが、いつまでも死者との私的な交流にとらわれていてはいけません。それでは単なるエゴ的行為になってしまいます」と明言しています。

いつまでも心霊現象にこだわるのは、
霊界人の誠意を裏切る愚かな行為

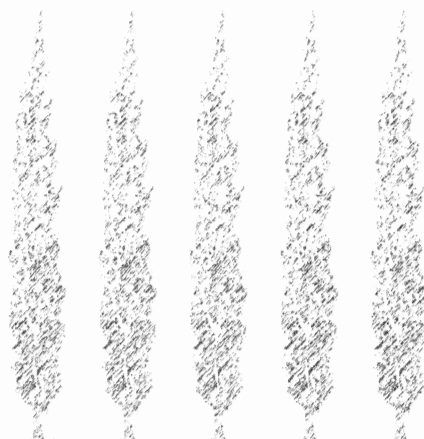
21世紀の現在は、すでに霊的真理の実践を中心とする新しいスピリチュアリズム（ハイレベル・スピリチュアリズム）の段階に入っています。そうした時期に霊的真理を手にしながらか、昔のままの心霊現象にこだわり続けるといふようなことがあつてはなりません。いつまでも死者との私的な交流を求めていてはならないのです。

心霊現象は、何も特別なものではありません。死

後の世界の存在は当たり前のことであり、他界した家族や知人は霊界で幸せに暮らしています。その事実が分かつた以上、地上人としてなすべきことは「霊的真理」を日常生活の中で実践し、自らの魂を引き上げることです。時代遅れの現象にこだわるのは、地球人類を救うために犠牲の道を歩んでいる霊界人の誠意を踏みじめる行為です。霊的真理の前座にすぎない心霊現象にとらわれ続けるのは、無知で愚かなことなのです。それが限度を超えれば“エゴ的行為”となつてしまいます。

<ポイント整理>

物理的心霊現象 → 霊魂説の証明・霊界通信の準備 → 霊界通信 → 霊的真理・霊的教訓



【2】初期スピリチュアリズム内部の靈的腐敗と墮落

——心霊現象に対する低俗な好奇心と、 心霊現象を悪用するニセ靈能者

靈界サイドの真意から懸け離れた スピリチュアリズムのイメージ

スピリチュアリズムの初期に、驚異的な心霊現象・奇跡的な超常現象を目の当たりにした人々は、そのことだけに関心を向けるようになってしまいました。そして肝心な靈界側の意図（*地球人類の靈的覚醒と靈的成長）には目もくれないといった状況ができて上がってしまいました。靈界サイドの真意と誠意を理解することなく、人々は低俗な好奇心だけに走ってしまったのです。

そしてスピリチュアリズムとは心霊現象とその研究である、といったイメージが、世間に広く定着することになってしまいました。

心霊現象への好奇心とエゴ的関心

スピリチュアリズムの初期の頃から、多くの人々が派手な心霊現象に吸い寄せられ、スピリチュアリズムに関心を向けるようになりました。しかし彼らの大半が、スピリチュアリズムの真の目的を理解することはできませんでした。そして心霊現象に対する低俗な好奇心から、低次元の流行やブームをつくり出すことになりました。

そうした状況は、今日の日本をはじめとする世界中のスピリチュアリズムにも、そのまま当てはまります。欧米のスピリチュアリスト・チャーチには、好奇心から心霊現象に惹きつけられた人々が集まってきました。彼らの中には、心霊現象を利用して利益を得ようとするような人間も数多くいました。こうした靈的腐敗状況は、地球人類に靈的救いをもたらそうとする靈界の人々に、深い絶望を与えることになりました。

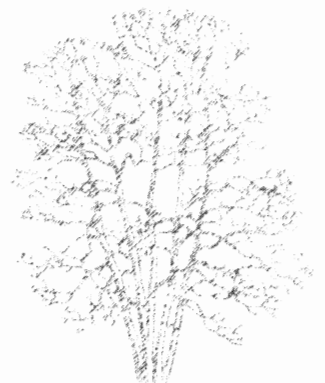
スピリチュアリズム本来の高い理想から逸脱し、

靈的退廃状況に陥ったスピリチュアリズムの実情を前にして、ある高級靈が残念な思いを次のように述べています。

地上は、あまりにも多くの利己的な人間であふれています。スピリチュアリストと言われる人々の中においてでさえ、そうなのです。彼らはただ、スピリチュアリズムから何か利益を得ることにしか関心がないのです。靈的真理に関心を持っているわけではありません。そのために彼らは交霊会で、世俗的で物質的な質問（自分の仕事や情事といったこと）をします。70パーセント以上の人々は世俗的なことにしか関心を持っていません。彼らは靈媒という特殊な人間から、そうしたことについてのメッセージや物質的な手段を聞きとるのです。

それがこれまで、スピリチュアリズムが全世界に広まらなかった理由なのです。そして地上人の人生を変化させることができなかった理由なのです。

(500に及ぶあの世からの現地報告・377~378)



心霊現象と霊的真理を悪用して大衆を騙す “ニセ霊能者”

心霊現象では、一般大衆の低俗な好奇心という問題と同時に、それを意図的に利用して詐欺を働こうとする“ニセ霊能者”の存在が常に問題となります。スピリチュアリズムは、まさにこうしたニセ霊能者との闘いの歴史と言えます。スピリチュアリズムは巷にあふれるニセ霊能者のウソを暴き、摘発してきました。スピリチュアリズムほど、ニセ霊能者やニセ心霊現象に厳しく対処し、徹底してメスを入れてきたものはないのです。

しかしニセ霊能者は、大衆の低俗な好奇心があるかぎり、消滅することはありません。ニセ霊能者にとって「心霊現象」は、手軽に人々を騙して信用させ、この世の富や名声を得るのに実に都合のいい手段なのです。この甘い汁に味を占めたニセ霊能者は、ますます悪事を重ね、泥沼から抜け出せなくなっていきます。そして現在も、心霊現象を利用して大衆の低俗な好奇心を操り、詐欺を働くニセ霊能者が闊歩しています。ニセ霊能者の詐欺の手口はますます巧妙化し、テレビや出版物などのメディアを通じて、一過性のブームや流行をつくり出しています。

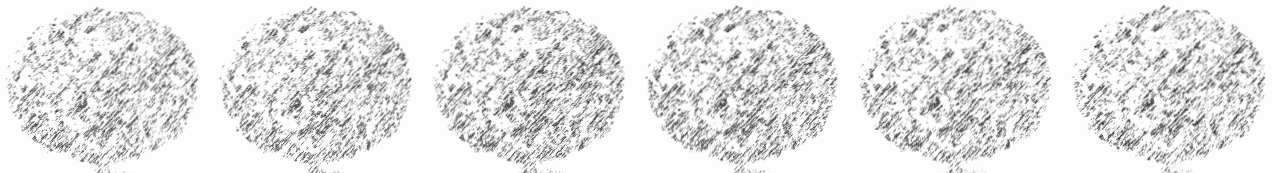
現在のニセ霊能者は、心霊現象ばかりでなくスピリチュアリズムの「霊的真理」を富や名声を獲得するために悪用しています。スピリチュアリズムを利用して人々を騙し、スピリチュアリズムの権威を貶め、霊界人の献身的・犠牲的な歩みを踏みにじるニセ霊能者は、スピリチュアリズムにとって敵以外の何ものでもありません。

今後のスピリチュアリズムでは、こうしたニセ霊能者との闘いがいっそう重要性を増すこととなります。それについて先に挙げた高級霊が、次のように述べています。

霊媒者やスピリチュアリストの中には、あまりにもいい加減なことを言う者が多いのです。霊媒者のふりをしている多くのニセ霊媒者がいます。彼らは大ボラを吐き続けています。彼らによる単なる作り話にすぎないものが、霊からの通信であるとされてきました。そのため霊媒者の語るものは、本物の霊の声ではないと疑いを持つ人々を生み出しました。

われわれは、こうしたニセ霊媒者と闘いをしなければなりません。スピリチュアリストの中には、自分が霊媒者ではないのにそのように思い込んでいる人も数多くいます。残念なことにまわりの人々も、しばしば彼らを本当の霊媒者と信じてしまうことが多いのです。スピリチュアリストの中には、知性の欠如から時に大きな問題・厄介な問題を引き起こす者がいます。

(500に及ぶあの世からの現地報告・368)



【3】スピリチュアリズムのターニングポイントと 心霊現象の変化

——初期スピリチュアリズムから

現代スピリチュアリズムへのレベルアップ

霊界側の計画と、

物理的心霊現象の演出の目的

これまでの話の内容から、スピリチュアリズムの心霊現象に関する背景や事情を知ることができました。その中で特に重要な点は、初期においてひんぱんに登場した物理的心霊現象は、いずれも霊界側の計画によって演出されたものであるということでした。霊界側の計画とは、地上人に霊的真理・霊的教訓を教え、霊的向上をもたらすことを最終目的としています。そしてそのための準備として演出されたのが「物理的心霊現象」だったのです。

また当時の心霊現象の演出には、近代科学を後ろ盾にして社会全体を巻き込もうとしていた“唯物論”^{けんぜい}を牽制するという別の意味もありました。その闘いの場が、英国スピリチュアリズムだったのです。唯物論は霊的世界そのものを、ひいてはあらゆる宗教を否定しようとしませんが、そうした勢力が世界中に広まろうとしていました。マルクスとエンゲルスによって“共産党宣言”がなされたのと同じ1848年に“スピリチュアリズム”が勃興した事実は、霊界人の意図を端的に示しています。

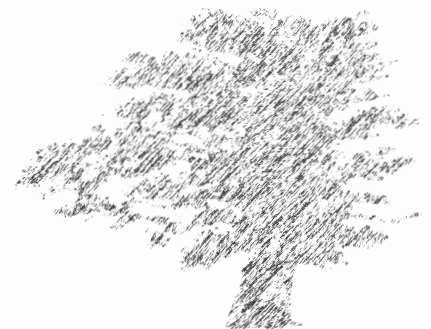
物理的心霊現象は、すでに時代遅れ

20世紀に入り、それ以前（18世紀半ば～19世紀初期）とは社会状況が大きく変化しました。科学自体にも根本的な変化が訪れ、“唯物論”は主張の根拠を失い崩壊することになりました。それにともない、それまで主流であった「物理的心霊現象」は徐々に後退することになっていきました。

先進諸国では、もはや物理的心霊現象を伝道の手段とする必要はなくなりました。霊界からの導きの

中で、「霊的真理」がストレートに地上人の間に普及していくような状況ができ上がっているのです。日本をはじめとする現在の先進諸国では、スピリチュアリズムの初期のような派手な心霊現象の演出は、もはや不要になっています。物理的心霊現象はスピリチュアリズムの中では、すでに時代遅れになろうとしています。

そして心霊現象の中心は、「心霊治療（スピリチュアル・ヒーリング）」や「主観的心霊現象」といった先進諸国の知性レベルに相応しいものへと移ろうとしています。地上人の内面に向けてより強く働きかけ、霊的覚醒を促すことのできるものへと変化しているのです。



心霊現象と霊界通信の二本立て展開

心霊現象の演出の目的は、「靈魂説」という基本的な霊的真理の正当性を人々に認めさせることでした。それと同時に「霊界通信」という高次の心霊現象を受け入れさせるための準備をすることでした。霊界から引き起こされた心霊現象はすべて——「霊的真理を地上にもたらし、地球上に普及させる」という目的に向けて展開されていきました。

驚異的な心霊現象の演出と並行して、霊界側は霊界通信の計画を具体的に進めていきました。その結果、イギリスでは、英国系スピリチュアリズムのバイブルと呼ばれたステイントン・モーゼスによる『霊訓』が登場することになりました。そしてフランスでは、アラン・カルデックによって『霊の書』『霊媒の書』という優れた霊界通信が世に出されました。『霊訓』と『霊の書』は、この後に登場してくる『シルバーバーチの霊訓』とともに“世界三大霊訓”と呼ばれています。

このようにスピリチュアリズムの初期には、物理的心霊現象の演出と同時に『霊訓』や『霊の書』といった高級霊界通信によって、地球人類に霊的知識・霊的教訓がもたらされることになりました。その後の霊界からの働きかけも、心霊現象と霊界通信という二本立てで進められていきました。

スピリチュアリズムのターニングポイント

世間一般には、スピリチュアリズムは第一次大戦までが“黄金期”と呼ばれていますが、それは「物理的心霊現象」と「心霊研究」という観点から見たものです。スピリチュアリズムを主導する霊界サイドからすれば、心霊現象の“黄金期”はどこまでも、その後のスピリチュアリズム計画の準備段階・初期段階にすぎません。

スピリチュアリズムは、常に霊界の計画にそって着々と進歩してきました。心霊現象を中心として見るなら、1920～30年がスピリチュアリズムの“ターニングポイント”になっていることが分かります。この時期を境として心霊現象は、物理的心霊現象から「心霊治療」や「主観的心霊現象」に中心が移っ

ていきます。スピリチュアリズムの勃興（1848年）から心霊現象の黄金期までを「初期スピリチュアリズム」と呼び、それ以後、現在に至るまでを「現代スピリチュアリズム」と呼びます。

さて、スピリチュアリズムの勃興の当初より一般的な心霊現象と並行して進められてきた霊界通信も、20世紀初期のターニングポイント期以降には『シルバーバーチの霊訓』の登場を迎えることになりました。『シルバーバーチの霊訓』という最高の霊界通信の登場によって霊界通信自体が一段とレベルアップし、それまでとは比較にならない質的向上を遂げるようになったのです。そしてそれ以前は“英国系”と“フランス系”に分かれて発展してきた霊界通信が、さらに高次元の心霊理論によって一つに統合されることになりました。『シルバーバーチの霊訓』を通して、スピリチュアリズムの思想体系の全体像が明確に示されるようになったのです。



「初期スピリチュアリズム」と 「現代スピリチュアリズム」

19世紀の心霊研究を中心としたスピリチュアリズムを「初期スピリチュアリズム」と呼ぶなら、20世紀初期以降のスピリチュアリズムを「現代スピリチュアリズム」と言うことができます。初期スピリチュアリズムと現代スピリチュアリズムは、ともに同じスピリチュアリズムに属しますが、内容的に大きな違いがあります。

初期スピリチュアリズムは「心霊現象」を中心とするものであるのに対し、現代スピリチュアリズムは高級霊の「霊界通信」を中心とし、地球人類全体に霊的真理をもたらす、霊性進化を促すことに重点が置かれています。初期スピリチュアリズムが心霊現象を通して「霊魂説」の正当性を主張しているのに対し、現代スピリチュアリズムは「霊的真理・霊的教訓」の啓蒙を主な目的としています。このように現代スピリチュアリズムは、初期スピリチュアリズムと較べると内容的に格段に進化しているため「ハイレベル・スピリチュアリズム」と言えます。

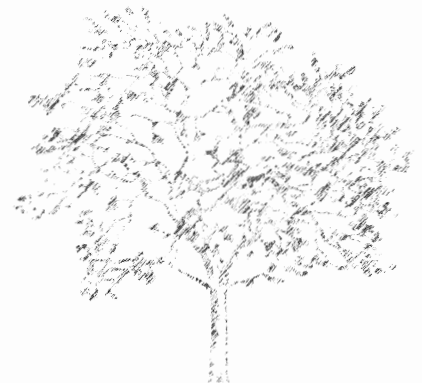
21世紀現在のスピリチュアリズムは、19世紀の心霊研究を中心とするものとは、思想内容においても霊的レベルにおいても大きく進化しています。すべての内容が比較にならないほど高次元になっています。心霊現象に関する知識のレベルも、初期の頃と較べてあらゆる点でレベルアップしています。これまでの霊的知識が集積され、体系化されるようになっているのです。

現代スピリチュアリズムでは、心霊研究よりも霊的真理とその実践を重視しています。「霊的真理・霊的教訓」が現代スピリチュアリズムの中心となっていて、人類全体の「霊的成長・霊性進化」を最終目的としています。

霊性の優れた新人類の登場と、 ハイレベル・スピリチュアリズムの確立

スピリチュアリズムが地上に登場して以来、160年の歳月が過ぎ去りましたが、その間、スピリチュアリズムは常に霊的レベルアップの道をたどってきました。そして今後も、さらにその霊的次元を高めていくこととなります。スピリチュアリズムを論じるうえで最も重要な点は——「スピリチュアリズム運動は、人類に霊的救済をもたらすために高級霊が総動員で展開しているプロジェクトである」ということです。それは地球人類の霊性を向上させ、地球上に真の幸福をもたらそうとする人類史上、最大の計画なのです。

19世紀半ばにおける地上展開の当初から、スピリチュアリズムは霊界で立案された計画（ブループリント）に基づいて着々と進められてきました。スピリチュアリズムの初期には、霊界の計画にそって数々の心霊現象が演出されました。そして現在も、霊界からの働きかけによってスピリチュアリズムの質的向上がはかられています。現代スピリチュアリズム（ハイレベル・スピリチュアリズム）は、21世紀の地球人類に、最も重大な霊的影響を与えているのです。

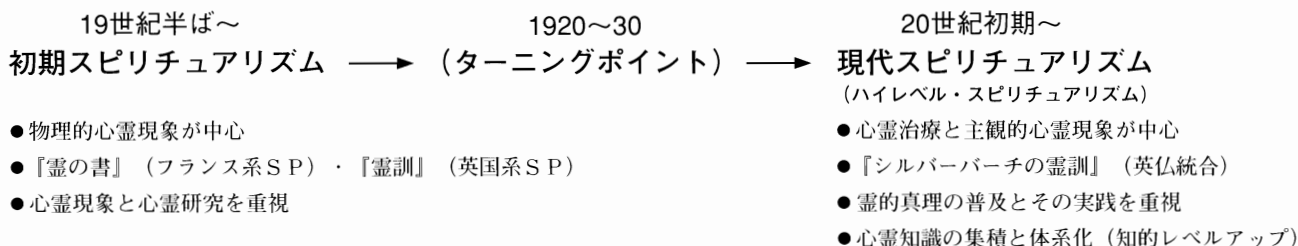


スピリチュアリズムは今後、今よりさらに大きく変化・進歩するようになっていきます。また人類の霊性も現在とは比較にならないほど向上することになります。霊的な直感で霊的真実を悟ることができる人間、霊界からの働きかけやインスピレーションに適切に呼応することができる人間が、ますます増えていくようになるでしょう。そうした動きにともなって「現代スピリチュアリズム」はさらにレベルアップし、「真のハイレベル・スピリチュアリズム」が、地球規模で確立されるようになっていきます。霊性の優れた人間がこれからのスピリチュアリズ

ムの主流を形成し、かつてのような心霊現象だけに関心を持つ人間は片隅に追いやられることとなります。今後のスピリチュアリズム運動は——「心霊現象」と「霊的真理・霊的教訓」を思想的土台とし、その上に「真理の実践」を積み上げるというより高次元の段階に入っていくこととなります。そして霊的真理が、地球人類共通の思想・常識になっていくようになるのです。

以上の内容をまとめると、次のようになります。

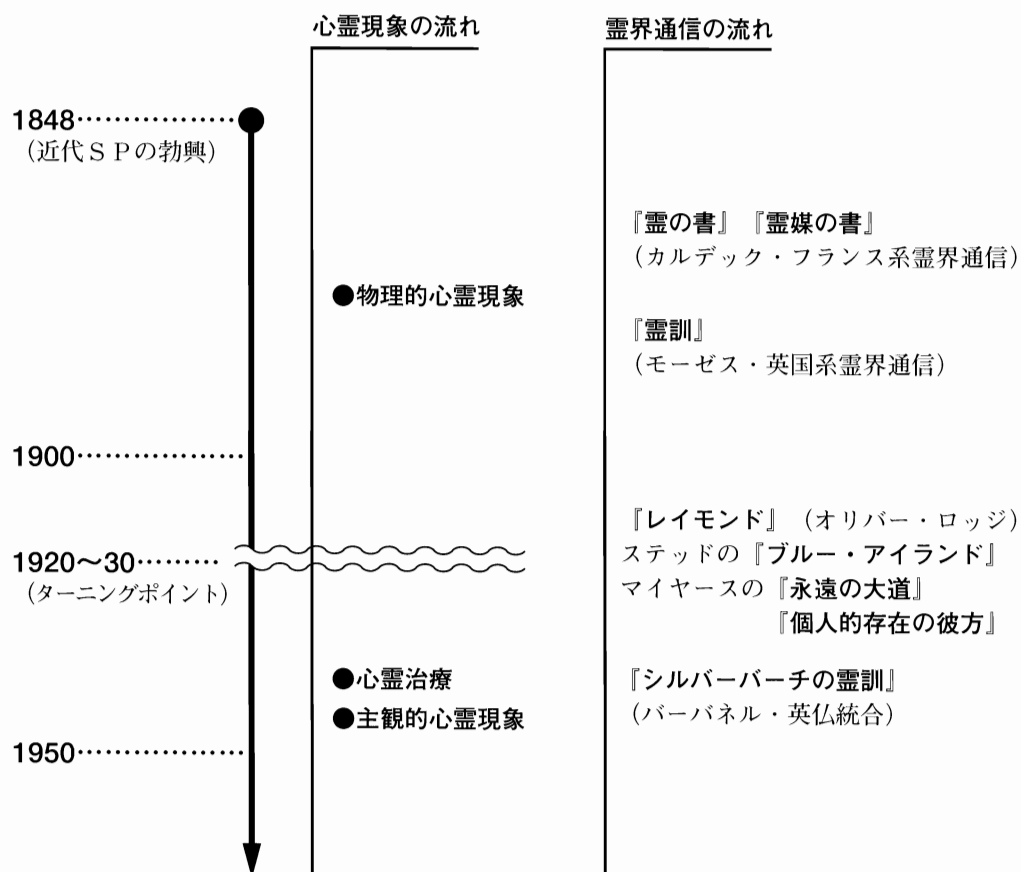
<スピリチュアリズムの進化プロセスとターニングポイント>



【4】スピリチュアリズムにおける心霊現象の通史

——計画的な心霊現象演出の推移

スピリチュアリズムの心霊現象の推移（歴史的経過）を図示すると、次のようになります。これはスピリチュアリズムの心霊現象の通史図です。



“フォックス家事件”に対する反対論者の捏造^{ねつぞう}

反対派の圧力に屈して“ウソ”をついた本物の霊能者の話

過去から現在に至るまで世の中には数多くの自称霊能者が存在し、実際には霊能力がないのに、さも霊能力があるかのように振舞ってきました。“ニセ霊能者”は人々の霊的無知に付け込み、デタラメな作り話を^{だま}して騙し、お金や人気・名声などを手に入れようとしてきました。その悪質なやり方は、ペテン師・詐欺師と何ら変りはありません。

残念ながら霊能者を名乗る者の大半はニセ霊能者であり、スピリチュアリズムは常に彼らと闘ってきました。圧倒的多数を占めるニセ霊能者のウソや不正を暴き、^{てきはつ}摘発してきたのです。

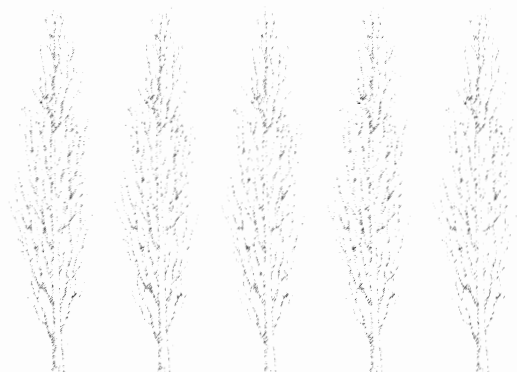
さて、スピリチュアリズムの歴史の中には、そうしたニセ霊能者とは異なる特殊なケースがあります。本当の霊能力の持ち主が、真実の霊的現象を起こしてきたにもかかわらず、周りからの批判・圧力に負けて「自分は詐欺を働いてきた」とウソの告白をするという出来事があったのです。霊能力も心霊現象も本物でありながら、それをわざわざ“ニセモノ”であったと公言したのです。「自分はウソをついて人々を騙してきた」と打ち明けた言葉が、実は“ウソ”であったということです。

一般的に霊能者によるウソや詐欺といった不正は、霊能者自身の^{ほんのう}煩悩や世俗的欲望によってなされるものですが、ここで取り上げるケースはそれとは異なり反対者からの圧力・非難に負け、本心に反してウソをついたというものです。スピリチュアリズムに対する反対者の代表がキリスト教会ですが、キリスト教会はスピリチュアリズムの拡大を恐れて非難・迫害をしてきました。その^{ほこき}矛先がしばしば霊能者に向けられ、彼らにウソの告白を強いてきたのです。

そうした“ニセの告白事件”としてスピリチュアリズムの歴史の中で最もよく知られているのがフォ

ックス姉妹による詐欺の告白です。“フォックス姉妹”といえは、スピリチュアリズムの出発点となった「ハイズビル心霊現象事件（フォックス家事件）」の当事者です。この2人の姉妹が引き起こした心霊現象から“スピリチュアリズム”は出発しました。その姉妹が揃って——「自分たちはウソをついていました。詐欺を行って人々を騙してきた」と告白したのです。2人の姉妹の告白は、まさにスピリチュアリズムそのものを否定し、その存在意義を失わせかねないほどのインパクトを持っていました。

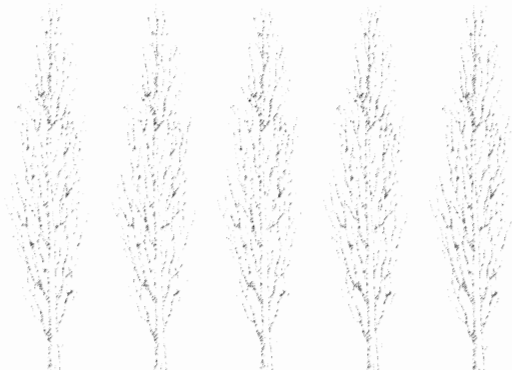
これは反対者にとって、スピリチュアリズムに打撃を与える願ってもないチャンスでした。実際、現在に至るまでスピリチュアリズムに反対する人々は、フォックス姉妹の告白を事あるごとに引き合いに出し、“スピリチュアリズムは初めから詐欺であった”と主張します。そして鬼の首でも取ったかのように意気揚々とスピリチュアリズムを^{たた}叩こうとします。



しかしフォックス姉妹の告白は、実は反対者からの買収によってなされたものでした。姉妹の複雑な家庭環境と人間関係、そして人間的な弱さや煩惱に付け込んで、反対派が画策したものだっただけです。ニセの告白をした一年後、姉妹は前言を翻し——「反対派にそそのかされ、買収されてウソをついた」と再び告白することになりました。しかし、いったん公表してしまったウソの告白は、取り返しのつかないほどのダメージを与え、すべてが後の祭りとなってしまいました。その後、姉妹は再び霊媒としての仕事を始めますが、もはや誰からも信用されず、まもなく姉妹は孤独の中で他界することになりました。

反対派は、フォックス姉妹の最初の“ウソの告白”だけを大々的に取り上げますが、一年後にそれを撤回した事実——「反対派に買収されてウソの告白をした」という再告白の事実については一切取り上げようとしません。再告白のあとに霊媒としての仕事を再開したことは、姉妹が自分たちの霊能力とそれによって引き起こされる心霊現象を真実であると考えていたことを物語っています。単に生活の苦しさから霊媒の仕事を再開した、という理由だけでは説明が付きません。

以下では、フォックス姉妹がウソの告白をするに至った経緯と、その告白の内容を見ていくことにします。



フォックス姉妹が“ウソの告白”に至る経緯と、その後の状況

スピリチュアリズムの出発点となった“フォックス家事件”については、すでにこれまで何度も述べてきましたし、また外部の書籍などでもしばしば取り上げられていますので、ここでの説明は省略します。

当時、フォックス家事件を好意的に受け入れた人は、それほど多くいたわけではありません。批判者や懐疑論者の方がずっと多かったのです。そうした中で事件に疑問を抱いた人々によって調査委員会が発足し、徹底した調査が開始されるようになりました。検証のために泣く泣く裸にされた姉妹は、膝を使って音を出すことができないように足を紐で縛られ、足の指の関節を用いたインチキを防ぐためにクッションの上に立たされました。こうした厳格な条件下で何度も調査が行われましたが、ペテンや詐欺の疑いは全く認められませんでした。それどころか姉妹の身体とは別の所（空中）で、相変わらずラップ音が発生し続けたのです。

姉妹の評判は高まり、やがて2人（マーガレットとケート）は長姉のリー（*23歳上の腹違いの姉）の指導で職業霊媒として独立し活動することになりました。2人はリーのもとで公開デモンストレーションを行い、ますます有名になっていきました。こうした動きと並行して、米国内では姉妹のような霊媒が数多く出現し、各地で交霊会が開かれるようになりました。

姉妹（マーガレットとケート）は、反対派の非難やひっきりなしのデモンストレーションによって疲弊状態に追い込まれていきました。そして3人の姉妹の仲もしだいに険悪になり、マーガレットとケートは、長姉のリーに対してひどい憎しみの感情を抱くようになっていきました。3人の姉妹はそれぞれに結婚しましたが、幸福な家庭生活に恵まれなかったこともあって、アルコールに溺れるようになり、特にマーガレットはアルコール中毒になってしまいました。

そうした中で1888年、フォックス家事件から30年後に、マーガレットはニューヨークの新聞に「交霊会はすべてインチキ・イカサマだった」との告白記事を公表しました。マーガレットは、この記事によって長姉のリーに対する復讐を^{もくろ}目論んだのです（*同じくリーへの憎しみから、妹のケートもこの告白に同調しました）。

しかしマーガレットは、その一年後に^{ひるがえ}前言を翻し——「あの告白は反対派によって買収されてやってしまった」との再度の告白をします。そして姉妹は再び霊媒の仕事を開始しましたが、自分たちの口から霊媒を詐欺呼ばわりした失敗はもはや挽回することはできず、それから数年を経て寂しさと孤独の中で2人とも他界することになりました（*3人の姉妹は、それぞれ3年も間をおかず次々と亡くなっています）。

フォックス姉妹の“ウソの告白”の内容

1888年10月21日に、マーガレットはニューヨークの新聞に署名入りで告白記事を公表しましたが、以下はその記事の内容です（*『だからあなたは騙される』安斎育郎著・角川テーマ21からの引用）。

「降神術（*交霊術）の真相を暴露することは、私（*マーガレット）の義務であり、神の教えに添うことであり、聖なる使命であると考えましたので、告白に踏み切った次第です。私は降神術がこの世から消える日の来ることを念願するものであります。私がこうした行動に出たことで、他の多くの職業的降神術者たちは大きな打撃を^{こうむ}被るに違いありません。しかし、降神術の開祖は私ですから、それを暴露するのは私の自由であると思います。

この恐ろしいペテンが始まったとき、私は8歳で妹のケティ（*ケート）より1歳半年上でしたが、生来私たちは大変いたずらっ児でしたから、母をびっくりさせてやろうといろいろな方法を二人で考えていました。母は大変お人好しでしたので、ちょっとしたことにもびっくりするのです。そこで私たちは、夜ベッドに入ると、リングに^{ひも}紐をつけて脇に垂らし、ベッドの中から紐を引いたのです。リングは

床にあたって奇妙な音をたてました。母はしばらくの間は聞き耳をたてていましたが、私たちは幼かったので、そんなに悪いことをしているとは思えつきませんでした。

母はとうとう我慢ができなくなって村の人たちを呼んで、この奇怪な音を聞いてもらうようになったのです。そこで私たちは、あの^{やみ}闇にひびく不気味な太鼓のような音を出す別の方法を考えなければならなくなったのです。というのは、私たちを見に来る人の数はだんだん多くなり、それらの人たちが目を皿のようにして見守る中で、リングのトリック程度では最早、通用しなくなったからです。

そこで私たちは、ベッドに入って部屋の明かりをすっかり消さなければ、音を出さないことにしました。それでも見破られる危険がせまってきたので、こんどは片手でベッドの枠を叩く方法に切り換えました。これらの演出は、全部、長姉のアンダーヒル夫人（*長姉のリー）が取りしきっていました。私はそうして次第に有名になってまいりましたので、この姉に連れられて、活動の舞台をロチェスター市に移しました。

そこにいる間に、ケティ（*ケート）が鼓音を出す新しい方法を発見したのです。それは、手を振っても足を振っても、指の関節が音を出す方法でした。けれども、それをたやすくしかも効果的にできるようになるまで、私たちは暗い部屋の中で猛練習を続けました。足を振って鼓音を出すには、^{ひざ}膝から下の筋肉をコントロールすることができるようになれば簡単です。この場合、足の指の骨とくるぶしの骨が音を出すのですが、このことは誰にも知られませんでした。けれども、そのような筋肉のコントロールは、幼いときに始めて、長い訓練を継続して初めてできることです。筋肉は年とともに柔軟さを失うものです。私は当時12歳になっていたため、この練習には少し歳をとりすぎていたようです。



ロチェスター市で、アンダーヒル夫人は、エキジビションを催しました。遠い地方からも大勢の人々が群れをなすように集まりました。夫人の手には一晚で150ドルもの大金が入りました。集まった人たちの質問には、すべてに答えが出されました。それは『イエス』か『ノー』の二つだけですが、それは鼓音によって答えられたことは申すまでもありません。その答えはすべて夫人からの合図によって選ばれたのでした。

1848年のデビュー以来今日に至るまで、私たちのインチキ方法を臭い^{くさ}と思った人はほとんどいませんでした。それでも中には、私たちが本当の霊媒なのか、それともインチキなのかと疑った人たちもいました。そのためにたびたび試験のようなことをされました。ペンシルバニア大学のセイバード委員会における実験、ハーバード大学の教授たちを前にした実験などはそれでしたが、私たちは最後まで尻尾^{しっぽ}を出しませんでした。

私（*マーガレット）も妹（*ケート）も、靈魂の働きなど考えたこともありません。靈魂が肉体から離れて、またこの世に戻るなどということは信じられません。しかし、それを真実できるものと信じきっている人は、世の中にたくさんいます。そこで私は、そういう実例をこの目で見たいと思って、他の霊媒たちを観察したり、私自身も靈魂の便りを聞きたいと思っていろいろやってみましたが、結局そんなことは不可能であると確信するに至りました。私がケイン博士と結婚してから、博士は降神術（*交霊術）を忘れるように求めました。けれども、博士の死後、私は暮らしのためにそれを続けました。私の不運の原因は、『私の姉にある』と断言することができます。

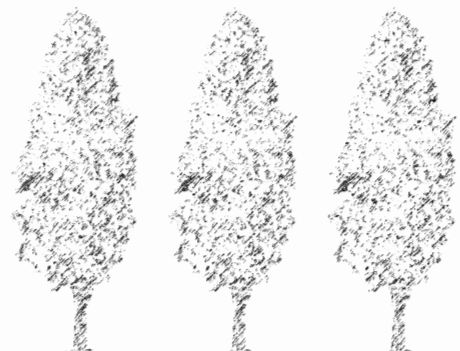
私がこの度の暴露に踏み切ったのは、カトリック教会の勧告によるものではありません。私自身の決断によるものです。降神術（*交霊術）は一種の手品です。ただし、上達するには並々ならぬ努力が必要です。私が多くの人たちに害悪を及ぼしたほどの腕をみがくためには、幼いときからの練習を続けることが必要だったのです。

このインチキを最初に考えだし、最も大きな成功をおさめた私の告白によって、これ以上、降神術者が増えることを食い止められることを確信します。私の告白文は、降神術（*交霊術）なるものはすべて詐欺であり、偽善であり、妄想以外の何物でもないことを証明するものと信ずるものであります。

署名 マーガレット・フォックス・ケイン

以上が1888年10月21日の新聞に掲載されたマーガレットの告白記事の内容です。このマーガレットの告白記事が掲載された日の夜、ニューヨークのアカデミー・オブ・ミュージックで、反対派主催のマーガレット自身による「タネ明かしの会」が開かれました。

マーガレットはその会場で、靴を脱ぎ、右足をテーブルの上に乗せ、聴衆がシーンと静まり返る中で、数回、鼓音を鳴らしました。聴衆の中から3人の医師が選ばれてステージに上り、マーガレットの足を調べ、音は足の指の第一関節の働きによって発生したと証言しました。

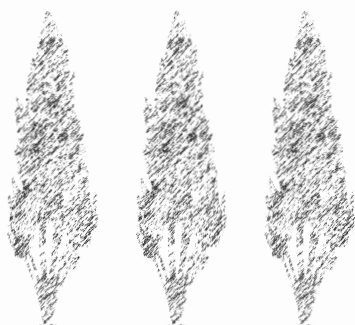


反対派からの、すさまじい工作と働きかけ

こうしたマーガレットの告白ならびにその夜の「タネ明かしの会」における結果を聞くと、そのあまりのリアルさに、これは本当のことではなかったのかと思う方もいらっしゃることでしょう。それほど告白内容は具体的で詳細で、真実性に満ちているように映ります。しかし実際にはこの告白は、肝心な点・最も本質的なところがすべてウソと作り話で塗り固められています。

ここまで詳細に経緯^{けいゐ}を述べながら、その一年後にマーガレットはこの告白を翻します。反対派にそそのかされて“ウソの告白”をしたことを暴露したのです。ウソの告白の中で、彼女は交霊術を徹底してインチキ・手品・ペテン呼ばわりしていたにもかかわらず、その後、マーガレットは再び霊媒の仕事をするようになりました。こうした事実は、彼女が交霊術をペテンとは思っていなかったことを端的に示しています。

ニセの告白をするに至った背後には、反対派のすさまじい工作と働きかけがありました。この告白文の中には、長年にわたってつもり積もった長姉リーに対するマーガレットとケートの激しい憎しみがよく表れています。姉妹のリーに対する個人的復讐心に、反対派が付け入ったのです。この告白文が用意周到に準備されたものであることが、文面の至るところから^{にじ}滲み出ています。おそらくマーガレットの話^{はなし}を題材にして、第三者（反対者や教会関係者）がつくり上げたものでしょう。



的外れな反対者の主張

スピリチュアリズムに対する批判者は、フォックス姉妹の“ウソの告白”を事あるごとに持ち出して、スピリチュアリズムはすべてニセモノであると主張します。しかしフォックス姉妹の告白は、2人の本心から出たものではなく、彼女たちの人間的な弱さや複雑な人間関係に付け込んで反対派が買収した結果、引き起こされたものだったのです。ウソの告白の一年後に前言を翻して——「自分たちは反対派から買収されてウソの告白をした」との再告白をしています。そしてその後、姉妹は再び霊媒としての仕事を再開しています。こうした肝心な点を取り上げずに、最初いでっち上げたウソの告白だけを持ち出して、スピリチュアリズムはニセモノ・インチキと決めつけることは、きわめて卑劣な行為です。

そもそも“フォックス家事件”がスピリチュアリズムの出発点とされる根拠は、“ラップ”という素朴な心靈現象を通して霊界にいる霊と地上人との間に通信が成立し、その通信の信憑性^{しんぴやうせい}が物証（骨・毛髪・ブリキ箱など）によって明らかにされた点にあります。こうした事実は、フォックス姉妹が後になってどのようなウソの告白をしようが揺らぐものではありません。その時点における肝心な点について何ひとつ言及せずに“スピリチュアリズムはインチキである”と一方的に断じるのは、あまりにも幼稚なやり方です。反対者の中には、死者に関する情報が姉妹にこっそり伝わっていたとか、死者が壁に埋め込まれていたことを姉妹が推測していたといった、こじつけとしか言いようのない理由を挙げて、どこまでも霊からの通信の可能性を否定しようとする者もいます。

しかし誰が聞いてもその説明に説得力はなく、「霊のみが知る情報を、霊が心靈現象を通して伝えてきた」と考える方が論理的であることは言うまでもありません。何よりもそうした死者からの通信によって、地上人が全く知らない事実が明らかにされるといった話は数え切れないほど存在しています。フォックス家事件における霊からの通信の正当性の証明といったことは、何もこの一件だけの特殊

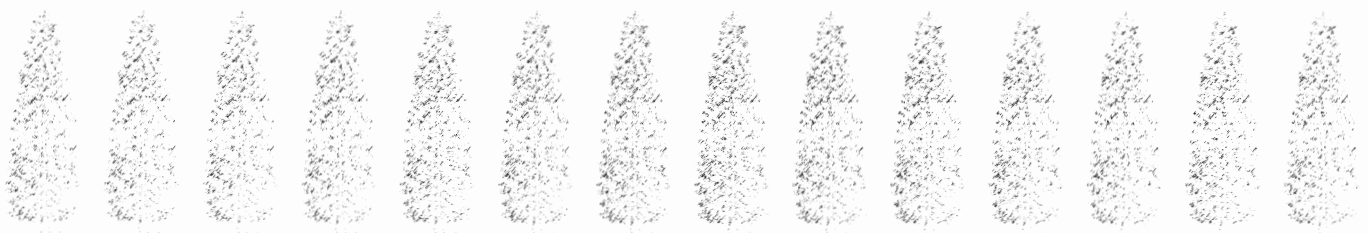
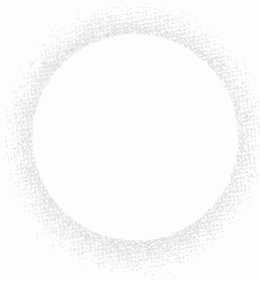
ケースではなく、何千、何万という現実の出来事の中の一つにすぎないのです。何千、何万というケースをすべて否定したりインチキ扱いすることの方が、よほど論理的とは言えません。

では、マーガレットがフォックス家事件以来30年も経ってから「タネ明かしの会」で実演した指鳴らしの事実は、どのように考えるべきでしょうか。マーガレットが実際に指鳴らしをして見せたとしても、それが過去の事件（フォックス家事件）の交霊術がインチキであったことの証明にはならない、ということです。何よりも「タネ明かしの会」当日の指鳴らしの実態に関する情報には、全く信憑性がありません。その場で発生したとされる音が、果してどの程度のものであったのか、昔と同じような大きな音であったのかどうか重要な点なのです。

本当のラップ音は、周りを巻き込むほどの振動をともなっていました。そのため当時の研究者は、これほど大きな音をもし姉妹が関節を用いて鳴らしたとするなら姉妹の関節は潰れてしまっている、との

結論を出しているのです。当初からずっと“関節でインチキ音を出しているのかもしれない”という疑いが持たれていて、研究者は常にその点を徹底してチェックしてきたのです。しかもバウファロー大学の研究者が、叩音は関節を用いて鳴らしたものだとの一方的な見解を出したとき、姉妹はそれに対して反論をしているのです。そしてその後の厳格な公開実験においても、関節を用いることは完全にできない条件下で叩音が発生した事実が確認されています。こうした経緯を姉妹はよく知っていたため、“ウソの告白”の再告白の後に、再び霊媒を始めることになったのです。

反対派が自分たちに都合のいい条件下で行った実験結果だけを持ち出し、公的な機関によって出された結論を無視するのは、あまりにも独断的であり卑劣と言わざるをえません。マーガレットによるニセの告白の中の“当時の研究者にトリックは見破られなかった”という言葉も、反対者にそそのかされてついた“ウソ”だったのです。



スピリチュアリズム・ビデオ&テープ
ライブラリー

VIDEO&DVD

『地球人類の霊性進化の道
“スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

ビデオ

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2,000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3,500円

※ビデオは、VHSとS-VHSの2つのタイプがあります。どちらかをご指定ください。
S-VHSのタイプの方が、よりきれいに映りますが、専用デッキでないと再生できません
のでご注意ください。

DVD

「真理編・前編」

「真理編・後編」

> 2時間DVD 3枚セット (価格)
(合計 5時間30分) ……5,500円

※いずれも別途、送料がかかります。

C D

朗読CD

「スピリチュアリズム入門」(新版) 74分 CD 5枚……………3,000円

※製作準備中

「続スピリチュアリズム入門」(新版) 74分 CD 7枚……………4,000円

※製作準備中

「500に及ぶあの世からの現地報告」(改訂新版)

74分 CD 10枚……………5,500円

※製作準備中

※いずれも別途、送料がかかります。

★朗読CDにつきましては、現在すべて製作準備中のため、欠品となっています。

● 書籍の「再版状況」についてのお知らせ ●

★『続スピリチュアリズム入門』（新版）は
8月上旬に完成の予定です。

多くの方々からお問い合わせをいただいている『続スピリチュアリズム入門』（新版）を、8月10日頃には発行できる見通しとなりました。予定が遅れ、長い間お待たせいたしました。ご予約をいただいている皆さまには、8月半ばにはお届けできるものと思っております。

この『続スピリチュアリズム入門』（新版）は、内容の多くが旧版とは違っています。テーマは同じであっても大幅に手を入れ、文体・表現はすべて新しくなっています。『スピリチュアリズム入門』（新版）と併せて、スピリチュアリズム・高級霊訓のガイドブックとして活用してくださることを願っています。

でき上がりしだい、ホームページを通じてお知らせいたします。お電話・ファックスでのご予約をお受けいたしております。



☪ スピリチュアリズム・ライブラリー ☪

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門（新版・219頁）
ースピリチュアリズムが明かす心霊現象のメカニズム&素晴らしい死後の世界ー
- ◆続スピリチュアリズム入門（256頁）※現在、再版準備中
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆霊媒の書（297頁）
スピリチュアリズムの真髄「現象編」
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆霊の書（357頁）
スピリチュアリズムの真髄「思想編」
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告（改訂新版・437頁）
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー
『Life After Death』 ネヴィレ・ランダル著／小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道（全訳）（271頁）※現在、再版準備中
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方（全訳）（304頁）
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- ◆霊訓（完訳・上）『The Spirit Teachings』（225頁）
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳
- ◆霊訓（完訳・下）『The Spirit Teachings』（260頁）
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る（443頁）
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓（272頁）
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓（281頁）
ー地上人類への最高の福音ー
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 ー霊的新時代の到来ー 『The Spirit Speaks』（301頁）
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアル・ヒーリングとホリスティック医学（371頁）
ー霊的エネルギー療法の本質と将来の医学の方向性ー

※日本スピリチュアル・ヒーラーグループ発行

早いもので、2009年も半年を過ぎました。この半年間は世界的な経済不況と新型インフルエンザの大流行で、世界中が混乱状態に陥ってきました。人々は先が見えない状況の中で不安に駆られ、右往左往しています。最近になって経済に復調の兆しが見られますが、それももうしばらくのことで、次の第2波では今回よりもっと大きな痛手を世界中が被るようになるでしょう。一方、新型インフルエンザについても、今年の秋以降には強毒性を持ったウイルスに変異し、パニックが地球全体を覆うようになるかもしれません。

しかしこうした出来事も、人類の進化におけるほんの一コマにすぎません。すべては人間が神の摂理から外れて物欲に溺れ、人間中心の利己主義に走ったツケを今、受けているというだけのことなのです。こうした出来事を通して人類が減ぶようなことは、決してありません。死は霊界という素晴らしい世界へ行くことであるとの確信を持った人間にとって、死ぬことは恐れではありません。またこの世のモノやお金や名声などに全くとらわれず、最少限の必需品だけでよとする物欲を超越した者にとって、経済破綻は何のダメージにもなりません。

人間にとって一番大切なことは、「神の摂理」にそった生き方を目指していくということです。それを“スピリチュアリズム”が、霊界からの働きかけのもとで率先して行おうとしているのです。霊界主導のスピリチュアリズムこそが、地球人類の真の救いの道なのです。

私たちスピリチュアリストはそのことをしっかりと肝に銘じて、“神の兵士”として働いてまいりましょう。地球人類のために最高の貢献ができることを喜びとし、ともにがんばってまいりましょう。



Spiritualism Circle
Kokoro no Dojo